

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190700171		
法人名	医療法人 善成		
事業所名	グループホーム小葉音 橙季		
所在地	佐賀県鹿島市大字納富分2126-2		
自己評価作成日	令和2年1月23日	評価結果市町村受理日	令和2年5月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和2年3月5日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※ フットケア・2ヶ月に1回専門の先生によるケア 内容は足浴 爪切り マッサージ 角質除去 魚の目除去 陥入爪 等爪白癬 等早期に発見してもらい皮膚科受診に繋げる ※ 毎月ご家族様に入居者様のグループホーム小葉音橙季での様子を職員手書きによる、手紙 ※ 2ヶ月に1回新聞(小葉音)発行
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和元年5月に新設されたグループホームであり、グリーンをアクセントに、明るく、さわやかな印象のホールは外からも入りやすい雰囲気を入居者の表情も生き活きとされている。入所者の希望を聞きながら調理師が作る料理は好評で毎食完食されており、入居者の楽しみの一となっている。フットケアに力を入れられており、毎日の足浴と2ヵ月毎の専門家による個別のフットケアをサービスで行われており、皮膚状態の把握や乾燥やむくみの防止、清潔保持に努められている。その他、睡眠状況を確認できるマットレスを全部屋に設置して、質の高い睡眠が保たれるよう健康管理に配慮し、入居者一人ひとりの要望を実現しながら快適に過ごしていただけるよう日々取り組まれている。
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につくカウンターの上に掲げているので、それとなく目を通されていると思います。	玄関や職員の作業台に理念の掲示がなされており、採用時にも理念の説明が行われている。職員は理念をふまえた支援を心掛けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて、区長さん・民生委員さんとの交流は出来ていると思います。	食材は地産地消を心掛けられており、地域の商店で購入した旬の食材を使った食事を提供されている。隣の幼稚園との交流や地域のボランティア慰問等地域とのつながりを大切にされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだ地域貢献はできていませんが、運営推進会議時など、認知症についての話はできています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現状報告・活動内容を報告し地域の行事・情報は得ています。	運営推進会議に入居者や家族も参加し、毎回活発に意見が交換されている。意見に対する回答や取り組みの報告を行うことでサービス向上に役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、メンバーの中に市役所の方がいらっしゃいますので、報告し、それに対して助言を頂きサービスの向上に努めています。	運営推進会議では市担当者からの助言を受けることも多く、その後の取り組みについても報告を行い、行政機関とも連携しながらサービス向上に取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	小葉音は身体拘束ゼロの目標で介護に努めています。研修・勉強会を行い利用者様の尊厳に努めています。	現在身体拘束は行っておらず、言葉による拘束にも気を配られている。2ヵ月毎のミーティングでも身体拘束に対する勉強会を行い、職員間で身体拘束に対する意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の見えるところに掲げて虐待防止に取り組む研修会に参加し 入浴時等全身状態の観察をおこなったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会に参加し、施設で朝の申し送り時に再確認を行い入居者様が安心して生活できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、ご家族様に(リスク説明書)(入居料金)(個人情報について)説明を行い納得されたうえでサイン 捺印を貰っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を玄関の見える場所に設置しています。	面会時に職員から日ごろの状況報告をこまめに行い、家族の要望や意見の把握に努められている。意見が聞かれたときにはその都度対応を行い、職員間で申し送られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時・又はミーティングで意見を出し合い良い意見は取り入れ改善に努めています。	管理者は気兼ねなく意見や提案のできる環境を整えられており、職員個人の意向についても配慮するよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働管理セミナーの勉強会に行き、働きやすい職場を目指しています。有給休暇の希望取り入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に参加し、個人のスキルアップに努め良い介護が出来るよう努力しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回のグループホーム交流会で、いろいろな意見を出し合い良いところを参考にしてサービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様・入居者様と意思疎通を取り、信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の面会時話し合いの場を持ちご家族様とも信頼関係が出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の困っていらっしゃることで、又本人様の出来ないところに目を向け支援を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食時等一緒に食事をしたり、隣の席に座ったりしてコミュニケーションはとっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の個人便り・2ヶ月に1回新聞(小葉音)を発行しグループホーム小葉音橙季での生活を報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の趣味・思考等を把握し自宅での生活に近い環境作りを行っています。	馴染みの面会者が多く、ゆっくり過ごしてもらえように配慮されている。行きつけ美容室や地区の集まりに参加支援など入居者の馴染みの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午睡以外はホールで過ごしていただき孤立させないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	オープンして9ヶ月余り、皆様毎日楽しく・元気に過ごされています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の今まで生活されてきた中で思いや・こだわりを受け入れることが出来るように努めています。	希望の訴えの少ない入居者に対しては本人の生活歴やその時の表情などを確認しながら可能な限り本人の意向に沿えるようサービス提供されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報・アセスメントを把握し個人の生活歴に、目を向けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来るだけ自宅に近い生活が出来るように配慮しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向を大切に介護の現場の声に耳を傾け、計画作成に取り組んでいます。	本人・家族・主治医の意見をプランに反映されており、職員全員で介護計画の作成の検討がなされている。状態の変更等がある場合は現状に即した計画に変更されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態・状況観察しケース記録に残して情報を共有してケアの統一を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の個性・能力を勘案し柔軟なケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア慰問・入居者様の友人の面会沢山の方に来て頂き潤いを持っていただくように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期外来受診時など、バイタルチェック・夜間帯の入眠状態・身体状態等報告行い連携をとっている。	基本的にかかりつけ医の受診を推奨されており、家族や医療機関と日頃の情報の共有に努められている。また、緊急時や介助が必要な場合は職員付き添いの外来受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤に看護職の職員がいるので、入居者様の状態・着衣時など、報告・連絡蜜におこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のカンファレンスを行い看護・介護サマリー活用しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた対策今後の課題で話し合いの段階です。	開設して間もなく重度化した方はおられない状況である。その為、施設としての方針も検討中の状況である。	重度化や終末期についてホームとしての方針の検討を行い、今後について本人・家族と話し合いを行われることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と24時間報告・連絡体制を取り入れ異常時の早期発見に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・防火訓練の参加を行い運営推進会議などで地域の方・行政の方に協力支援をおねがいしている。	火災避難訓練時には近所の住民から見守り支援等を受けられている。また、災害時に職員への一斉連絡システムを導入されており、近隣の職員が災害時にすぐに駆け付けることのできる体制を取られている。	食料品の備蓄や様々な災害に応じたマニュアル作制等を行い、火災以外の災害についても備えられることを今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊厳の念をもって接している。	入浴やトイレ誘導時の声掛けには羞恥心を与えないよう、声の大きさや声のかけ方等に注意しながら対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重し、出来るだけ本人の気持ちに寄り添っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて、余裕をもって支援をおこなっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洋服は出来るだけ本人様に選んでもらっています。入浴後は、保湿クリームをつけて皮膚の潤いを保つようになっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の個々の嗜好を聞いたりして献立を作成したりしています。	食材やいろいろ、味付けにこだわられており入居者全員完食されている。食後の片づけやホットケーキづくり等入居者のできる能力を生かしながら食事を楽しむことができるよう工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶・水ばかりでなくジュース・ポカリ・紅茶など、提供しています。毎月1回体重測定を行い低栄養の予防に努めています。毎日食事量のチェックを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三度の食後の歯磨き・義歯洗い土曜日は義歯洗浄剤に漬けて消毒行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々のパターンを見出しトイレ誘導・トイレ声掛けを行い気持ちよく過ごしてもらっています。	日中は全員トイレ誘導行っており、極力トイレで排せつしてもらうよう支援されている。居室にポータブルトイレは置かずにトイレでの排泄を徹底されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、排便コントロールを行っています。水分・繊維質の食べ物献立作成を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の好みに応じた温度(40℃・41℃・42℃)入浴提供しています。毎回「気持ちよか」の言葉がかけられます。	毎日入浴の準備されており、入居者には原則2日に1度、入浴していただいている。入浴の順番や温度設定等入居者の希望に配慮したサービスを提供されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家での生活のリズムを継続できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がわかりやすいように処方箋・薬の効果・注意書き又薬の量の変更時には、連絡ノートに記載し毎日目を通しサインをしてもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様に応じたレクを取り入れたりしています。天気が良い日には外出(ドライブ)レクに行き気分転換を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	嬉野温泉の足湯・秋は紅葉見学・太良方面にドライブレク行って気分転換を行っています。	定期的に計画されている。外出行事の他、自宅訪問や近所のスーパーで買い物するなど個別で対応されることもある。天気のいい時には入居者の希望に応じてホームの周りを散歩に出かけることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆ど家族様がされています。入居者様の希望時には、GHが立替にて商品を購入します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話支援行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員の声のトーンや足音などに配慮し室温・照明には注意しています。	共有空間に温度計を設置して適温に保たれるよう工夫されている。午後からは休まれる入居者もおられるのでテレビは消し、声の大きさや足音等に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者様の会話・時間配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が家で使用していた衣装ケース・タンス・毛布等入居時持ってきていただいております。	特に持ち込み制限等はされておらず、使い慣れたものを持ち込まれている。また、居室にはポータブルトイレなどは置かず空気の入替えをこまめに行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在は自分の居室はしっかりと判られて、居室で過ごしたいときは、過ごされています。部屋も綺麗に整頓され障害物は置かない工夫をしています。		